

何日是好日

検査室
だより

02

新年のご挨拶



検校庵 住職 鈴木 恵道

令和三年、新年明けましておめでとうございます。

昨年より変わらぬコロナ禍に於いて、檀家さま、信者さま、ご縁のある皆さま方は如何お過ごしでしょうか。

さて、検校庵だより発刊のきっかけともなった新型コロナウイルス感染症ですが、世界中を見渡す限り未だ収束の目途が立たないまま新しい年を迎えました。

このような状況の中に於いて、新たな気付きを得た方も多いことでしょうか。

私自身は、自粛期間の間、毎月恒例の御詠歌教室も自粛しておりましたが、全国のお大黒さま対象の御詠歌初心者講習の講師をする予定でしたが、それも含めて全ての講習会が中止となりました。

自粛期間中、私自身は手付かずだった事務所のお掃除「断捨離」に追われておりました。

正直言って、物を捨てるということが苦手です。

まだ使えるとか使えない、要る要らないという判断をする以前に、「誰かから何かの記念に頂いた物」であるとか、「何時ぞやの行事で必要だった物」であるという様に、物には全て思い出があるからです。

そうはいえども、生きている年月が長くなれば思い出と共に物が増えてしまいますよね。それでも中々捨てられないものです。

仏教の教えでは、その心を「あなたの拘りがそうさせているのですよ」と教えて下さっております。これを言い換えると「執着心」と云います。執着心を手放すことを断捨離と呼ぶのですね。

自粛後も時間を見ては、断捨離をする日々を過ごしております。

世界を見渡せば、新型コロナウイルスの影響により世界中の工場が止まってしまいました。その反面、環境汚染の問題が（一時的とはいえ）著しく改善されたそうです。

ロサンゼルスでは何十年ぶりかに山が見え、インドや中国では青空が仰ぐことが出来たそうです。

この事実、豊かで便利な暮らしを手に入れた私達が、それらを手放せば地球が綺麗になることを世界に知らしめました。

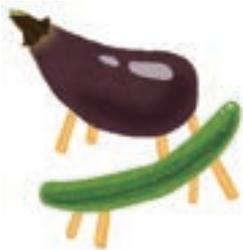
世界中が一丸となって取り組むべき課題は沢山あるものの、まずは自分が出来ることとして、節水、節電、リサイクルなどから取り組んでみては如何でしょうか。

皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



2020年4月7日に撮影した米ロサンゼルスの高層ビル群と雪山
(朝日新聞オンラインより転載)

令和三年の行事予定



7月8日「^{せじきえ}施食会」10時
お盆の先祖供養と、新盆のご供養をする法要。(お施餓鬼とも呼ばれます) ご先祖に共に掌を合わせましょう。



3月15日「^{ねはんえ}涅槃会」10時半
お釈迦様の亡くなられた日に、そのご遺徳を偲ぶ法要。悩み苦しみのない涅槃を目指して共に歩みましょう。



12月8日「^{じょうどうえ}成道会」15時
お釈迦さまのお悟りをお祝いする法要。「やしょうま」を準備してお待ちしております。



4月8日「^{けんぎょうさい}検校祭」10時
検校尊像の供養とお釈迦さまの誕生をお祝いする法要。「花祭り」を共に祝いましょう。

どなたでもご参加いただけます。
法の要と通して、仏の教に触れてみませんか。

令和3年 法事年回表

1周忌	令和 2年	亡
3回忌	令和 元年	亡
	平成31年	亡
7回忌	平成27年	亡
13回忌	平成21年	亡
17回忌	平成17年	亡
23回忌	平成11年	亡
27回忌	平成 7年	亡
33回忌	平成 元年	亡
	昭和64年	亡
50回忌	昭和47年	亡
100回忌	大正11年	亡

検校庵では、ご法事・通夜・お葬式・会食・勉強会・花見などの各種行事に昔からご利用いただいております。

お檀家さま・信者さまに限らず地域の方々に幅広くご利用いただくことが出来ますので、お気軽にお問い合わせください。

◆法事年回表とご先祖様の命日を見比べて、年回忌に当たっているかをご確認ください。

◆土・日・祝日にご法事を希望される場合、お早めにご連絡をお願いします。

◆本堂でのご法事・会食も可能ですので、是非ご利用ください。

お寺をご利用ください

私たちに出来ること

藤田 清隆

勿体ない

「もったいない」という言葉は、
仏教の思想が根本にある言葉であ
ります。

「もったいない」とは「物体（勿体）」
のことで、モノの本来あるべき姿
を指します。

世の中の事物すべてを意味し、
それ自身単独では存在できないと
いう仏教の考え（空の思想、縁起
の法）を示しており、「もったい
ない」は勿体を否定する言葉で、
モノの本来あるべき姿がなくなる
ことや、それを惜しみ、嘆く気持
ちを表しているのです。

ところが、これに該当する英語
は存在しないようです。

環境分野で初のノーベル平和
賞を受賞したケニア人女性、ワ
ンガリ・マータイさんによっ

て、日本人の精神が宿ったこの
言葉は「もったいない」から
「MOTTAINAI」となり、世界の
環境スローガンとして羽ばたいて
いきました。

ここでいう日本人の精神とは、
Reduce（リデュース）削減）、Reuse（再
利用）、Recycle（リサイクル）再資源化）と
いう環境活動の3Rだけではあ
りません。かけがいのない地球環
境に対する Respect（リスペクト）尊敬の念）
が込められている言葉こそ「もっ
たいない」なのです。

杓底一残水

道元禪師は、川の水をその流れ
から柄杓に汲み、必要な分を使っ
て、残った水を捨てずに川に戻し
たと云い伝えられています。

無限に溢れ出てくると思われる
川の水ですが、それでも一滴の水

さえも無駄に使わない。
柄杓に残るわずかな水であって
も、元の川の流れに戻すことによ
り、下流の人々や、その先にある
多くの子孫まで自然の恩恵を受け
ることが出来るのです。

修行僧たちは現在も道元禪師の
教えに従い、毎朝の起床後は桶一
杯だけの水で、歯を磨き、顔を洗
い、耳の裏まで丁寧に洗うという
生活を続けております。

桶に水を汲む際、必要以上の水
は要りません。日々の繰り返しに
より、必要な量が分かりますし、
足りない者に分け与えてあげるこ
とが出来るのです。

地球資源には限りがあることを
忘れてはなりません。

私たちは自然の恩恵で生きてお
りますが、その反面で自然災害や
ウイルス感染などの脅威とも共存

していかねばなりません。

この世界にある全てのものは、
お互いに支え合い、助け合って生
かされているという事実を知るこ
とが大切です。

自分以外の他者も思いやる。人
も、物も、自然も全て。

大本山永平寺の参道の柱には、
「杓底の一残水、流れを汲む千億
人」と書かれております。

他を思いやる心。この心が子孫
の未来、地球の未来に続く大切な
心なのです。

私事ですが、十一月九日に待望
の娘「つむぎ」が産まれました。

呼吸が上手に出来ず、一月ほど
入院をしていた際の写真を表紙に
させて頂きました。今という一瞬
を懸命に生きる彼女の為にも精進
してまいります。

